

「地域とのつながりを大切に」



宮崎 卓海 (41 歳)
(久万高原町)

I ターン・新規参入

1 就農の動機・理由

昔から自然が好きで農業に関心を持っており、妻も農業に興味があったことから、将来的に夫婦で農業を行いたいと考えていた。

こうした中で東京の就農相談会に参加して、久万高原町の研修制度を知り、研修中のサポート体制や就農後の補助制度が充実している点に魅力を感じ、就農を決意した。家族の理解と支えを受け、久万農業公園研修センターでの2年間の研修を修了し、その後、夫婦で久万高原町に就農した。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和5年)	現在の経営 (令和7年)	将来の経営 (令和9年)
労働力	男1人(本人) 女1人(妻)	男1人(本人) 女1人(妻)	男1人(本人) 女1人(妻)
経営耕地	畑 30a	畑 30a 水田 50a	畑 34a 水田 50a
経営内容	夏秋トマト 20a (雨除け施設) 多肉植物 0.7a	夏秋トマト 20a (雨除け施設) 水稲 50a 多肉植物 0.7a	夏秋トマト 20a (雨除け施設) 水稲 50a 多肉植物 4a

○農業用施設

ビニールハウス 5棟
農業用倉庫 2棟

○主要農業機械

軽トラック 1台
養液土耕システム 1式
細霧冷房装置 1式
刈払機 1台
乗用型トラクター 1台
管理機 1台
運搬車 1台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 埼玉県
職歴 農業法人
就農研修歴

久万農業公園研修センター
(R3. 4. 1～R5. 3. 31)

就農年月 令和5年4月

(2) 就農時の思い

農業を本格的に始められることを、楽しみにしていた。研修期間とは異なり、自分の責任で農業を行う立場となったことを意識し、日々の作業一つ一つを大切にしながら取り組んだ。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

研修期間中は、研修センターや町、JA、県などの農業関係機関によるサポートを受けて、単独でハウスを担当し、栽培管理を実践的に学んだ。巡回時には栽培上の課題や具体的な作業内容について相談することができた。

また、自身でも栽培技術の向上を図るため、インターネットを活用して栽

培管理の情報収集を行うとともに、先輩農家のほ場を訪問して見学や助言を受けるなど、主体的に技術習得に取り組んだ。

(2) 資金の準備

国の経営開始資金と久万農業公園のリース事業を活用してハウスを建設し、町の新規就農促進事業で細霧冷房装置を導入した。

(3) 農地・住宅の確保

県外からの新規参入のため、一から探す必要があったが、町や久万農業公社の方の支援を受け、希望する地域で農地と住宅を確保することができた。

(4) その他苦労したこと

就農2年目以降は、地域の役を担うようになり、農作業に加えて地域活動にも時間を割く必要が生じ、忙しさが増している。その中で、作業の省力化や効率化の重要性を強く感じた。

5 農業経営の特徴

トマトでは細かい霧状の水をハウス内に噴霧できる細霧冷房装置を導入し、農薬や肥料の散布にも活用しており、省力化を図っている。

また、妻がトマト栽培の合間に、多肉植物を栽培しており、主にインターネットを通じて販売を行っている。

6 これからの夢

今後は、さらに栽培技術の研究を重ね、作業の効率化を図りながら安定した収量の確保に挑戦していきたい。

また、自身が新規参入者として就農した経験を活かし、これから農業を目指す人が安心して就農できる地域づくりに貢献したいです。

7 成功したキーポイント

人とのつながりを大切にしてきたことが大きな支えとなった。地域の行事などにも積極的に参加し、地域になじむことを心掛けたことで、農業や暮らしに関する助言を受けられる関係が築けた。

8 就農を目指す方へのアドバイス

農業を始めるにあたって、技術の習得はもちろん大切ですが、それと同じくらい人とコミュニケーションを取る力も重要だと感じています。農業は多くの人の支えがあって成り立つ仕事だと思うので、就農前から周囲との関わりを大切にする意識を持っておくとよいと思います。

○ 指導機関からのひとこと

栽培技術の向上を目指して日々工夫を重ねており、研究熱心に取り組む姿勢が地域の方々からも頼りにされています。これからも地域農業をリードする担い手として活躍されることを期待しています！

執筆機関

中予地方局農業振興課地域農業育成室
久万高原農業指導班
電話番号 0892-21-0314



トマトの育苗管理